



八 剣 山 通 信

第 2 2 号

八 剣 山 発 見 隊

2004年 3 月 8 日 発行

3月7日(日) 「雪中山歩き」を実施しました。

【行事の概要】

3月に入りましたが、まだ寒い日が続き、場所によっては朝の気温が氷点下10度以下まで下がる日が続いています。しかし、一日ごとに日中の時間が長くなりつつあるとともに、太陽の光がまぶしく感じられるなど、春はもう、すぐそこまで来ていることが感じられるようになった今日この頃です。

今回の「雪中山歩き」は、八剣山周辺における新たな魅力の発見と、春をむかえようとしている大自然の息吹を体いっぱい受け止めることを目的として実施します。

スノーシューを履いて、このカタ雪の季節でなければ入ることのできない八剣山の裏山を探索します。いつもは小川が流れていて通れなかったり笹やぶで入れない場所でも、今は雪の下です。そこを歩き回ることにより

八剣山の周辺を生息の場所としている、キツネやウサギなどの動物が、雪の上に残した跡を観察する

木の枝に止まりながら高らかにさえずりわたる野鳥の鳴き声に耳を傾ける

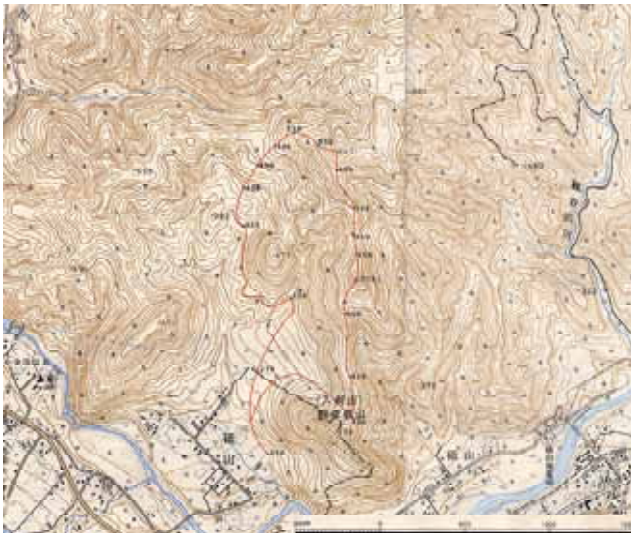
春に向けて芽吹き準備を始めた木の枝の芽の観察や、遠くに望まれる山々の景観などを楽しむ

ことにより、これまで八剣山周辺において知られていなかった新たな魅力が、いくらかでも発見できればと思います。

今回は、片道2時間、昼食1時間の合計で5時間の行程で予定しており、見晴らしの良い場所でお弁当を広げるなど、春に向かっている雪に囲まれた大自然の中でのひとときを、安らかな気持ちで過ごしてみたいと思います。

・主 催 : 八剣山発見隊

【今回の行事実施場所】



今回探索したルート

【行事の感想】

薄い雲を通して太陽の光が降り注ぐ中、スノーシューを履いて、八剣山周辺の森や雪原の探索を楽しみました。

森の中では、木の葉を落とした枝の間から木漏れ日が降り注ぎ、雪の上には今朝ほど活動していたのか、ウサギやイタチなどの足跡が点々と遠くまで続いていました。また、木の枝を通して八剣山の雄姿を見ることもできました。

シーンと静まりかえった白い世界には、雪を踏みしめる足音だけが聞こえましたが、ときどき頭の上からは高らかにさえずりわたる野鳥の鳴き声が聞こえました。いくら目をこらしても、どこで鳴いているかわかりませんでしたが、多くの野鳥が春に向かって少しずつ準備を始めた八剣山の周辺で活動しています。

木の枝の若芽は、まだ固い殻に閉じこもっていますが、そこは自然が織りなす、雪で作ったすばらしい作品の展示場所となっており、中にはフクロウによく似た作品も観察することができました。

八剣山周辺の自然の中には、一日の時間や季節によって様々に移り変わる私たちの知らない世界が広がっています。春に近づきつつある一日、雪に囲まれた大自然を観察することで、心の中に安らかな気持ちを持つことができたのではないのでしょうか。



【昼食場所での記念撮影】

【今後の行事予定】

- ・ 3月21日 世界の農業を考える講演会
- ・ 4月18日 桜の苗木植樹

発行：八剣山発見隊事務局(事務局長 山澤 敬)
 061-2274 札幌市南区小金湯510番地
 011-596-2920 FAX 011-596-2920
<http://sapporo.cool.ne.jp/hakentai/>

3月7日 雪中山歩き



【森の中をスノーシューで歩く】



【森の中で見かけた動物の足跡】



【木の間から見える八剣山】



【自然が作った作品「フクロウ」】



【森の中に降り注ぐ木漏れ日】



【遠くに見える山並み】

